



令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

学校名【 京都市立西京高等学校定時制 】

1 実践テーマ	I・II III IV V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	3年生 全クラス 計 40名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (3年生人権学習) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	障がいのある方々についての理解を深める。また選手との対話を通じ、共生社会の一員として成長し、自らの生き方について考える機会とする。
5 取組内容	<p>【事前学習】 10/28(水) 3限LHR 大講義室 ・事前オリパラアンケートの実施 ・VTR～めざせ2020年のパラリンピアン 「車いすバスケット・鳥海連志」～鑑賞</p> <p>【車いす体験学習】 11/18(水) 2・3限LHR 本校アリーナ 講師：車いすバスケットボール元日本代表コーチ 坂野晴男氏 京都UPSより選手2名 東選手、福田選手 ・講師による車いす説明・講習・体験 ・車いすバスケットボールのルール説明、クラス別対抗試合 ・選手から講話（体験談）・質疑応答</p> <p>②感想文記入・集約</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【車いす講習風景】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【試合風景】</p> </div> </div>

	<p>【事後学習】</p> <p>11/25(水) 3限LHR 各HR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事後オリパラアンケートの実施 ・車いす体験感想文をまとめプリント配布し、生徒の意見を共有した。
6 主な成果	<p>生まれつきの障がいや事故による障がいに向かう姿を学習することができた。また事故は誰にでも起きうるものと受け止め止めることができ、生徒一人一人が自分の生活と重ね考えることができた。</p> <p>【以下生徒感想より抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段の体育は苦手だったが、このような競技があることを知れてとてもよかった。 ・車を運転する側として、悲しい思いをする人が出ないように安全運転をしようと思った。 ・電車の車イススペースにもものを置かない。居座らない。点字ブロックの上に立ったり、自転車やモノを置いたりしない。 ・車いすバスケットに興味を持った。(オリパラで応援したい。) ・普段関わることのない身体障がい者の方と車いすバスケットを通じて目に見える分大変なことが、多いことや先天性じゃないからこそ辛いことがあることが分かった。 ・お店で喋ろうとした子供に対して親が露骨に反対することや逆に喋りに行くと怒り出す人など、相手も人間だからこそ、障がい者でなくても他人との関わり方を考えなければならぬ。 ・突然いろいろな状況に置かれた人の覚悟を忘れないようにしたい。私も自分を強く持って生きていこうと思った。 ・義足は知っていたが初めて見た。心のどこかで遠い話と思っていた。実際に会って話を聞いて重みがあった。試合などは楽しく、すごく貴重な体験だった。気を引き締めて生活していきたい。 ・リハビリの仕事に就くので、今回の経験を活かします。
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>少人数のクラスなので全員が車いすに乗る体験をすることができ、試合にも全員出場できた。試合は選手と一緒にできたので、その後の講話も真剣に聞くことができた。</p> <p>【新型コロナウイルス対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話中や試合の合間のマスク着用(講師・選手・生徒) ・講話中の生徒の間隔(2m) ・車いす除菌(使用前・生徒の入れ替え時) ・体験学習中はアリーナの窓や扉を開け、換気を常時行う ・体験学習後、除菌(手洗い・アルコール)
8主な課題等	<p>今年度は特に新型コロナウイルス対策をどのように行っていくかが最大の課題であった。生徒には関心の高い内容なので、最大限3密を避けるための工夫を行い実施していきたい。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>本校の生徒の特徴を鑑みた時に「壁にぶつかったとき、何度でも乗り越えていくことができるんだ」という姿を肌で感じることができるよい機会になっている。可能であれば、今後も継続して行っていきたい。</p>